

徳永 朗(とくなが あきら)

教授

専門分野／ブランド論、マーケティング論

学位：経営管理修士（専門職）

学歴：

東京大学教養学部卒業、早稲田大学大学院商学研究科専門職学位課程ビジネス専攻修了

略歴：

株式会社電通、株式会社博報堂ブランドコンサルティング（シニア・プロジェクトマネジャー）、株式会社博報堂（グループマネージャー/主席研究員）を経て、2019 年より現職。

著書：

『B2B ブランディング』（2006 年、日本経済新聞出版社、共著）、『実践 BtoB マーケティング』（2013 年、東洋経済新報社、共著）ほか

論文：

「『食』のデジタル化に対するマーケティングの観点からの一考察」経営論集 10 号（2021 年、単著）ほか



社会人野球の沼へようこそ！

皆さんは、「社会人野球」について見聞きしたことがありますか？プロ野球ファンの人でさえドラフト会議のときに情報に触れる程度で、ほとんどの人は縁遠い話でしょう。

そんな誰も知らない世界を、私は追いかけて続けます。東京ドームがまだ後樂園球場だったとき、夏の風物詩である都市対抗野球大会で、20 代や 30 代のお兄さんたちが真夏の日中に白球を追いかけている、今では考えられない姿をよく覚えています。何が私を魅了しているのか、少しお付き合い下さい。

まず、観るスポーツが与える感動を、思い切り堪能できる魅力です。プロ野球は、一つ負けても二つ勝てば優勝できます。半年以上やっています。社会人野球では、それぞれに特徴のある夏と秋の大きな大会を目指し、それらは負けたら終わりのトーナメントです。一つの試合に賭ける意気込みは大変なものです。高校生もそうだと思うでしょう。しかし、プロに匹敵するレベルの高さですから、意欲のぶつかり合いには凄味があります。高校生とは背負うものも違いますが、それは後で述べます。

一人ひとりの選手を知れば、より魅力はアップします。ある程度のスキルをもつ選手ですから、プレーには胸を熱くします。プロほどは凄すぎないところも良かったりします。加えて彼らの物語性です。大学・高校卒業時にプロから指名がなかった選手が再びチャンスを得るための鍛錬の場として、あるいはそれを断念した選手やプロで力及ばなかった選手が自分らしくあり続ける場として、この場所を選択し戦い続けています。選手を知ることによって楽しめるドラマ性もまた、社会人野球にほだされる理由の一つです。大学野球やプロ野球にも関心がある私には、個々人にとどまらず選手同士の関係性の歴史もまた楽しみの一つです。

野球好きにはたまらない試合の楽しさを、間近で見られるところが魅力の三つ目です。好事家は限られていますから、チケットの争奪戦は起きません。皆さんは、プロ野球の観戦をしたことがありますか？選手は米粒くらいにしか見えないのではないですか？試合全体を鳥の目で観られますか？私はバックネット裏でしか野球を見たことがありません（ドヤ顔）。全国大会で 2～3,000 円、地区大会なら 1,000 円で十分楽しめます。

さて、その観客席もとても興味深いものがあります。第四の魅力は応援と応援する人たちを見る楽しみです。先に触れた都市対抗野球は、さながら東京ドームに各地の夏祭りが終結した一大イベントのようです。企業名ではなく都市名（たとえば 25 年優勝の王子は春日井市代表）で戦います。社会人野球のチームは地域に根差した存在です。J リーグもそうだと思うでしょう。企業というものは、そもそもそういう存在なのです。地域社会というのは企業が経営を円滑に進めるにあたって、関係構築・強化を図るべき大切な存在です。大きな大会は、ふだんからの支援に恩返しをする機会でもあります。観客席には選手の同僚、同じ会社で苦楽を共にする同士がつめかけます。職場・会社のヒーローとともに戦うその人たちの姿には感動さえします。昭和の時代から培ってきた日本の企業の良さを見る気がします。

最後の魅力は、企業という組織、あるいはコミュニティのそういった不思議な磁力を感じる点です。チームを運営するには大きなお金がかかります。実際、毎年 1~2 の有力チームが活動を中止しています。それでも野球チームを持ち続ける意味は何でしょうか。それはどこかの授業でお話ししましょう。いや、球場に足を運び観客席に身を置けば、その答えはすぐにわかります。長く経営状態が芳しくない日産自動車は、一度は活動休止しましたが 16 年間の休止期間の後、活動を復活させました。私は、全国大会出場を賭けたライバル企業であるホンダとの試合を観に等々力球場に足を運びましたが、応援の熱はすさまじいものがありました。そこに復活の意思決定を下した外国人社長が登場し、そのボルテージは一気に高まりました。これが企業の一体感かと肌で感じることができました。

夏の都市対抗野球と秋に大阪である日本選手権はもちろんですが、おススメは 3 月の東京にはじまり、春から夏にかけて全国各地で行われる地区大会です。推し活をしている人には、遠征のような楽しさがあると言えるわかりやすいでしょう。学校の春学期のタイミングと重なりなかなか難しいですが、ぜひ社会人野球の沼にハマりに行ってみて下さい。野球好きだけでなく、経営を学ぶ人なら誰でも、感じるものがあるはずです。

閲覧者向けメッセージ

生成 AI の利活用について関心を持つ人は多いことでしょう。まずお薦め、いやお願いしたいのは、社会全般に関わる議論でなく、大学での学修に関わる議論に着目することです。そして、あなたが所属する教育機関の方針を理解し、それに従うことです。

私個人としては、少なくとも大学 1~2 年生の間はその使用を一切認めていません。理由は、大学での学びの最も重要な趣旨である、考える力を涵養することの妨げになるからです。しかしもう一点、教育現場の現実からより切迫した問題、理由をお伝えしましょう。

それは、生成 AI のせいであなたが見えなくなる点です。生成 AI を使えば、自分を飾り、繕うことができます。生成 AI が浸透する前は、宿題やレポートを通して、「一人ひとりの学生のリアル」をつかむことができていました。しかし、日常生活で息をするように生成 AI を使用する習慣が高校までに染みついた若者たちが大学に入ってきてから、それが極めて困難になっています。「リアル」には、能力と一言では片づけたくない、個性や考え方も含みます。その結果、評価のみならず、個々人に即した適切な指導ができなくなっています。少人数教育を標榜する大学、それを魅力に感じて入学する学生にとって、危機的な状況です。安易に依存するのは止めてください。